

<p>学校教育ビジョン</p>	<p>教育目標 自己肯定感を高め、「確かな学力・豊かな心・ (1)つながりが深まる学級集団づくりに努める。 (2)学び合 (3)心と体の健康力を高める。 (4)状況判</p>
-----------------	---

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組
①教育課程・学習指導	「わかる」「できる」喜びを子どもと分かち合うことのできる実践に取り組み、確かな学力の向上に努める。	授業や帯タイム、課外の補充学習を通して国語・算数の基礎基本の定着を図る中で学力を向上させる。 子どもが生き生きと話し合う授業を行うことで算数科が面白いと思う児童を育てる。
	「喜んで登校し、満足して下校する。」子を育てる。	授業や学校行事の中で、意図的に児童の活動を認め、褒める場面を多く取り入れ、自己肯定感が高まるような取り組みを工夫する。
②生徒指導	規律正しい生活習慣を身につけるとともに、規範意識を持って活動できる子を育てる。	学校の中で、社会的な関係づくりの一步として、学級・学校の仲間や先生との適切な話し方できるように指導する。
③進路指導・キャリア教育	人とのふれあいを大切に、進んであいさつができる子を育てる。	児童間や教師、来校者、地域の方に進んであいさつができるように、児童会が中心となってあいさつ運動に取り組む。
④安全管理	交通安全や非常災害時での安全確保にむけて、子どもたちの実践力と、職員の危機対応力の向上を図る。	地震・火災および不審者侵入を想定した避難訓練等を通して、子どもたちの危険予測や危機回避の実践力とともに、避難誘導等職員の危機対応力の向上を図る。
⑤保健管理	自分の身体に関心を持ち、健康や体力について考え、実践できる子を育てる。	担任による学級指導や養護教諭が行う保健指導・個別指導、健康委員会が行う活動や家庭との連携を通して、早ね・早起き・朝ごはんの大切さを働きかける。
		スポチャレいしかわのシャトルボールに積極的に取り組み、ボールを投げる力の向上に努める。
⑥特別支援教育	個に応じた指導の工夫と研修の充実を図り、児童を支援する協力体制を整える。	校内委員会を定期的開催し、情報交換や支援の必要な児童の把握に努める。要支援児童の個別指導やTTによる支援をする。
⑦組織運営	各分掌がそれぞれの役割を果たし、組織が一体となった活力ある学校運営を目指す	組織的な学校運営のために研究推進・生徒指導の2委員会を定期的開催するとともに企画委員会を開催して、各分掌間の連携を密にする。

⑧研修	校内研修に積極的に取り組み、授業改善に努める。	校内研修会、研究授業、教材研究、指導法研究の充実、講師の招聘、5分間OJTの活用、研究会の報告
⑨保護者、地域との連携	学校の教育活動に対し、公開や情報発信を通して、保護者・地域の関心を高め、積極的な協力を得る。	学校の教育活動を積極的に公開するとともに、学校からのたよりやホームページ等での発信や「げんまんカード」の取り組みを通して、保護者や地域と連携した教育活動を推進する。
⑩教育環境整備	校舎内外の安全点検を実施し、環境整備および美化に努め、校舎内外の施設・設備に起因する学校事故防止に努める。	毎月安全点検を実施する。不備なところがあった場合は速やかに対応する。また、日常的に学校整備や美化の視点を持って、施設・設備の保全に努める。

評価計画書

たくましい体」を持つ湖北の子を育てる。
 しい、「共感力」(安心して学び合い、さりげない優しさが育まれる)が高まる授業を工夫す
 断力を高める。

主担当	現 状	評価の観点
教科研究学力向上推進委員会	基本的な国語・算数の力はあるが、個人差があるため、どの子にも力をつける工夫をしていく。	【成果指標】 学年として必要な国語・算数の基礎的な力がついている。
	自ら手を挙げ発表する児童は少なく算数を苦手としている児童が多い。	児童が積極的に手を挙げて、自分の考えを発表することができる。
教務主任	学校の諸活動に積極的に取り組む児童がいる反面、自分の思い通りにならないとすぐに諦めてしまい、自己肯定感の低い児童も少なくない。	【成果指標】 自分の良い所を認識し、生活できる。
生徒指導主事 児童会担当 各学級担任	児童の言葉づかいは家族的で温かいが、公的な場面での役割を自覚した話し方が苦手な児童が多い。	【努力指標】 自分の役割を考えて、書き言葉で話す事ができる。
キャリア教育担当 児童会担当 各学級担任	あいさつ運動により自らあいさつをする児童が増えてきた。しかし、まだ声が小さく、受け身がちである。また、来校者、地域の方に対して進んであいさつすることがあまりできていない。	【努力指標】 誰に対しても進んであいさつができる。
教頭	年3回の避難訓練はおおむね真剣に取り組んでいる。自ら危険を予測し考えて行動できる児童を育成のために繰り返し体験させる必要がある。	【努力指標】 訓練時等には、児童・教職員とも、危機管理マニュアルに沿った行動ができる。
各担任 保健主事 養護教諭	早ね・早起き・朝ごはんを実行している児童は多くいる。しかし、高学年になればなるほど意識が薄れたり、生活習慣のリズムが改善できない児童がいる。	【成果指標】 早ね・早起き・朝ごはんを実践している。
体育担当	休み時間にドッジボールをして遊ぶ児童は多いが、柔らかいボールでないと投げられない児童が多く、体力テストでもソフトボール投げの記録が学校全体として低い。	【成果指標】 全学年シャトルボールに積極的に取り組み、ボールを投げる力を伸ばすことができる。
特別支援コーディネーター 特別支援教育校内委員会	困り感のある児童に対して、組織的・計画的な支援が必要である。	【努力指標】 児童の実態を把握して全体研修会を実施し、指導方法の工夫や改善に努める。
各主任 各分掌	2委員会を中心に各分掌はそれぞれ機能しており、今後さらに計画・実施・評価・改善のサイクルを意識しながら組織的な運営が必要だと思われる。	【成果指標】 各校務分掌の取り組みについて計画・実施・評価・改善のサイクルで全職員共通理解のもと運営されている。

研究推進委員会	算数科を中心とした学校研究を進め、校内研修を充実させることで授業の改善に努めている。	【努力指標】 校内研修会の内容を充実させ、日頃の授業改善に役立つよう努力する。
教頭 学年委員会	学年便り、学校便りは定期的に発行されていて、充実している。また、地域の人から学ぶ学習活動を行い、児童の学習意欲を高めた。「げんまんカード」の取り組みも工夫しながら取り組んでいる。	【満足度指標】 保護者・地域の人が学校の取り組みを理解し、満足している。
教頭 各担当	安全点検でチェックされた不備な箇所は、ほぼ整備・修繕が完了している。	【満足度指標】 毎月の安全点検票等を参考に、常に施設・設備の状況の把握し、児童・保護者・地域の人が学校の施設・設備の安全性に満足している。

加賀市立湖北小学校

する。

実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
国語・算数の学期末評価テストの平均点が、 A: 8割以上である。 B: 7割以上である。 C: 6割以上である。 D: 6割未満である。	C, Dの場合は指導の在り方を検討する。	学期末の評価テストで評価する。
算数を面白いと思い、積極的に発表することができる児童が A: 8割以上である B: 7割以上である C: 5割以上である D: 5割未満である	C, Dの場合は指導の在り方を再検討する。	7月, 12月にアンケート調査実施
自分にはいいところがあると認識する児童が A: 8割以上である。 B: 7割以上である。 C: 6割以上である。 D: 6割未満である。	C, Dの場合は自己肯定感を高める取り組みを再検討する。	7月, 12月にアンケート調査実施
重点項目が身についたと感じる児童・職員が A: 9割以上である。 B: 8割以上である。 C: 7割以上である。 D: 7割以下である。	C・Dの場合は指導の在り方を検討する。	7月, 12月にアンケート調査実施
誰に対しても進んであいさつをすることができる児童が A: 8割以上である B: 7割以上である C: 6割以上である D: 6割未満である	C, Dの場合は取り組み体制を再検討する。	7月, 12月にアンケート調査実施
避難訓練時に、児童が適切に行動できたと感じる児童・教職員が A: 9割以上である B: 8割以上である C: 7割以上である D: 7割未満である	C, Dの場合は取り組み体制を再検討する。	年3回の訓練実施後に調査
早ね・早起き・朝ごはんを実践している児童が A: 9割以上である B: 8割以上である C: 7割以上である D: 7割未満である	C, Dの場合は取り組み体制を再検討する。	7月, 12月にアンケート調査実施 親子で取り組む、げんまんカードの結果で評価
ソフトボール投げの記録が1回目より2回目の記録の方が伸びた児童の割合が A: 8割以上である B: 7割以上である C: 6割以上である D: 6割未満である	C, Dの場合は指導の在り方を再検討する。	年2回(春・秋)スポーツテストを実施 (秋はソフトボール投げだけ実施)
特別支援の研修や指導方法の改善に A: 十分努力している B: おおむね努力している C: あまり努力していない D: ほとんど努力していない	C, Dの場合は指導方法を再検討する。	7月, 12月にアンケート調査実施
それぞれの担当する分掌の取り組みが全職員共通理解のもと A: できた B: ほぼできた C: あまりできなかった D: できなかった	C, Dの場合は校務分掌の取り組み体制を再検討する。	学期ごとに教職員対象に調査

<p>校内研修会を授業改善に役立つよう A: 十分努力している B: おおむね努力している C: あまり努力していない D: ほとんど努力していない</p>	<p>C, Dの場合は研修会の内容, 持ち方を再検討する。</p>	<p>学期ごとに教職員対象に調査</p>
<p>学校の様子がよく分かったと感じている保護者の割合が A: 8割以上である B: 7割以上である C: 6割以上である D: 6割未満である</p>	<p>C, Dの場合は再検討する。</p>	<p>7月, 12月にアンケート調査実施</p>
<p>満足していると答えている保護者・地域の人々の割合が A: 9割以上である B: 8割以上である C: 6割以上である D: 6割未満である</p>	<p>C, Dの場合は再検討する。</p>	<p>7月, 12月にアンケート調査実施</p>